

Windows や Microsoft Office にバンドルされている繁体字フォントの MingLiU は特許化されているヒント処理を行わないとグリフが大幅に崩れるため、長い間フリーソフトウェアでの頭痛の種でした。

FreeType2 は特許に抵触しないヒント処理を開発し、これによって MingLiU のグリフの崩れを解決しましたが、商用 OS の世界では「TrueType 仕様書と異なるヒント処理によってさらに見栄えを改善する」という変化が起きていたため、仕様書通りにヒント処理した場合にヒント処理しない結果よりも汚くなるというフォントが広まり始めました。そのため、TrueType 仕様書に規定されているヒント処理の特許が切れた後も、ヒント処理を行わないことを期待するユーザが多数存在しています。フォントに応じてヒント処理を変化させるべきかどうか、明快な答えはまだありません。